日本リハビリテーション栄養学会

*Japanese Association of Rehabilitation Nutrition*

# NewsLetter

Vol.32

2023年6月

## -第13回リハビリテーション栄養学会　学術集会ご案内-

三重大学大学院医学系研究科リハビリテーション医学分野　百崎　良

この度、第13回日本リハビリテーション栄養学会学術集会2024年3月2日（土）、三重県・四日市市文化会館にて開催させて頂くことになりました。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、なかなか現地での学術集会開催が難しい状況が続いていましたが、徐々に落ち着いて来ているため対面での開催を予定しています。実行委員長である中原さんを中心に、たくさんの実行委員の方々に準備を進めて頂いております。また、食材くんにVTuberになってもらい、広報を手伝って頂いています。

学術集会のテーマは「デジタルヘルス時代のリハビリテーション栄養」としました。

近年、医療の各分野において、デジタルヘルステクノロジーの活用が進んでおり、リハビリテーション栄養の領域でもデジタルヘルステクノロジーを効果的に活用する基盤整備が必要であると考え、このテーマとしました。

また、ポストコングレスセミナーを2024年3月10日（日）、メタバース（仮想空間）内にて開催予定です。多職種、多領域の方々が集い、語り合い、実りある学術集会にしたいと考えておりますので、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

# リハ栄養フォーラム２０２３のご案内

リハ栄養フォーラム２０２３は**４年ぶりの対面開催**を予定しております.

新潟医療福祉大学　理学療法士　井上達朗

日時：２０２３年7月３０日（日）12:30-17:00を予定
(後日のオンデマンド配信も予定しております)
会場：ニッショーホール（旧ヤクルトホール）
〒１０５－００２１　東京都港区東新橋１－１－１９
募集人数：５００名程度
お申し込み：近日中にご案内いたします.

| | | |
|---|---|---|
| 講師： | 総合司会：前田　圭介先生(国立長寿医療研究センター) | |
| | 若林 秀隆 先生 (東京女子医科大学) | リハ栄養の原点と展望 |
| | 藤原 大　　先生 (坂総合病院) | リハ栄養の理論と実践 |
| | 永野 彩乃 先生 (西宮協立脳神経外科病院) | 急性期リハ栄養と摂食嚥下障害 |
| | 西岡 心大 先生 (長崎リハビリテーション病院) | 回復期リハ病棟におけるリハ栄養 |
| | 井上 達朗 先生 (新潟医療福祉大学) | フレイル・要介護高齢者の栄養理学療法 |

# TNT-Rehabilitation研修会について

TNT-Rehabilitation研修会は，アボットジャパン合同会社の支援のもと日本リハビリテーション栄養学会が主催しています．TNT-Rehabilitation研修会は、リハビリテーション栄養の基本的事項について体系的かつ正確に学ぶことができる研修会です。2019年度から年間2-3回開催され，これまでに350名以上が受講しています。
TNT-Rehabilitationは、講義・ワークショップ・ケーススタディの3部構成となっていおり、講義での基本的知識の確認に加え、参加者同士の討議を通して知識を深めていきます.
なお、TNT-Rehabilitationの受講は、「リハビリテーション栄養指導士」の取得条件になっています。

研修の構成

| | 講義 | ワークショップ | ケーススタディ |
|---|---|---|---|
| 目的 | これまで積み上げられてきたリハビリテーション栄養に関する知見を確認し，実践における考え方を確認します. | リハビリテーション栄養診断とゴール設定・介入について，参加者同士の議論の中で深めていきます. | 臨床でよく出会う4疾患を取り上げ，実践方法を具体的に学びます. |
| 内容 | なぜリハ栄養なのか？<br>リハ栄養ケアプロセス<br>リハ栄養診断<br>リハ栄養ゴール設定とリハ栄養介入<br>Protein Energy Wasting（PEW）と悪液質サルコペニアの摂食嚥下障害 | リハ栄養診断リハ栄養ゴール設定・介入 | 誤嚥性肺炎<br>脳卒中<br>大腿骨近位部骨折<br>悪性腫瘍 |

**2023年度　第1回TNT-Rehabilitationについて**
開催日時：2023年8月19日(土) 9:00-17:30予定 (対面開催)
会　　場：アボットジャパン三田本社会議室　(〒108-0073 東京都港区三田３丁目５－２７)
講　　師：前田圭介　先生(医師)，河内雅章　先生（医師），松本朋弘　先生（医師），
　　上島順子　先生(NTT東日本関東病院　管理栄養士)
参加申込方法：後日ご案内いたします.
募集定員　：45名（先着順．定員に達した時点で受付終了となります．職種は問いません）
参　加　費：リハ栄養学会 有料会員8,000円，リハ栄養学会 Facebook会員・非会員：18,000円

# リハ栄養研究デザイン学習会開催情報

大和大学保健医療学部総合リハビリテーション学科言語聴覚学専攻　鈴木　瑞恵

リハ栄養研究デザイン学習会は、リハ栄養領域で研究をやりたい、論文執筆をしたい方を対象に、研究デザインの基礎から実践までを3日間で学ぶ学習会です。今年度は2023年7月15日（土）～17日（月）に味の素高輪研修センター（7月15日）、NTT東日本関東病院（7月16～17日）で開催いたします。

10th
研究実践力の向上を目指す！

**リハ栄養研究デザイン学習会**

**開催日：2023/7/15―17**
＊全日程参加必須

**3日間かけて研究法の基礎を学び、グループワークを通じて臨床研究の立案まで行う、少人数制の学習会です**

**【場　　所】**味の素高輪研修センター (7/15)
NTT東日本関東病院４Fカンファレンスルーム (7/16-17)

**【参加資格】**リハ栄養領域のアウトプットを目指す方
具体的には
①筆頭演者でリハ栄養、リハ、栄養領域の学会発表経験がある方
②原著論文化に向けた研究をできるようになりたい方

**【費　　用】**リハ栄養学会員　20,000円、非会員　30,000円

講義一覧（登壇順に掲載しています）

| | |
|---|---|
| CQ作成から研究実施までの流れ | 吉村 芳弘先生 |
| 研究デザイン | 永野 彩乃先生 |
| 研究倫理 | 上島 順子先生 |
| 統計解析 | 前田 圭介先生 |
| ランチョンセミナー<br>「研究の第一歩　楽しさと奥深さ」 | 内藤 立暁先生 |
| 論文執筆からjournal掲載まで | 鈴木 瑞恵先生 |
| 臨床研究経験談 | 斎野 容子先生、森 隆志先生 |
| 臨床研究“指導”経験談 | 百崎 良先生 |

**【申し込み方法】**
下記申し込みフォームよりお申込みください
https://rihabnutrition.peatix.com

**【参加応募期間】**
4/17― 6/30(定員25名になり次第応募終了)

**【問い合わせ先】**
リハ栄養研究デザイン学習会事務局
jarn.studydesignworkshop@gmail.com

【学習会のプログラム】

- 講義：研究法の基礎を学びます。研究に精通した先生方にお願いし、臨床疑問の立案から論文掲載までの流れをご講義いただきます。また、臨床研究経験談、臨床研究“指導”経験談では、この学習会でしか聞けない研究経験の裏側を覗き見れるかも…。
- グループワーク：学習会のメインイベント！ファシリテーターを中心に、参加者の臨床疑問を研究が開始出来るレベルにまでディスカッションしていきます。グループワークは毎年白熱し、参加者が「辛かった、でもまたやりたい！」と口を揃えてしまうほど、疲労感と充実感間違いなしの内容です（例年、ありえない勢いでお菓子が消費されていきます）。
- ランチョンセミナー：今年度は、静岡県立静岡がんセンター呼吸器内科医長の内藤立暁先生をお招きし、研究活動を通して研究の楽しさ・難しさなどをご講演いただきます。内藤先生はがん悪液質研究をご専門とされ、進行期がんに対する栄養療法および運動療法を組み合わせた早期介入プログラムNEXTAC研究を推進されておられます。一流の臨床研究者である内藤先生のご講演は、研究初学者にとっては大きなエネルギーをいただけるものと思います。

「筆頭演者でリハ栄養領域の学会発表経験はあるけれど、次は論文化を目指したい」、「論文は1本書いてみたけど、更にブラッシュアップしたい」、とお考えの方にピッタリの学習会となっています。みなさまのご参加をお待ちしております！！

# 日本リハビリテーション栄養学会論文賞のお知らせ

熊本リハビリテーション病院　　白石　愛

日本リハビリテーション栄養学会では、毎年論文賞の選考を行っており、優秀な論文には、学術集会で表彰を行っています。昨年は、コロナ禍の影響で表彰式が行われなかったため、第12回日本リハビリテーション栄養学会学術集会では、昨年度の受賞者と今年度の受賞者が表彰されました。よかったら是非読んでみてくださいね。
また、今年度も論文賞の応募が始まります。条件等はありますが、是非論文執筆をしてご応募くださいね。論文賞選考委員会一同、みなさまのご応募を楽しみにお待ちしております。（応募詳細につきましては、近日アップ予定ですのでお楽しみに）。そして論文執筆をしてみたい先生方は、是非、7月15日から開催される、「第10回リハ栄養研究デザイン学習会」へご参加くださいね。臨床研究のヒントがたくさん見つけられる事、間違いなしです！

**昨年度受賞者**

嶋津さゆりさん
「Shimazu S et al: Frequent and personalized nutritional support leads to improved nutritional status, activities of daily living, and dysphagia after stroke. Nutrition, 83:111091, 2021.」

小瀬英司さん
「Kose E et al: The impact of decreasing potentially inappropriate medicationson activities of daily living in a convalescent rehabilitation setting. Int J Clin Pharm, 43(3): 577-585, 2020.」

**今年度受賞者**

松本彩加さん
「Matsumoto A et al: Deprescribing Leads to Improved Energy Intake among Hospitalized Older Sarcopenic Adults with Polypharmacy after Stroke. Nutrients, 14(3): 443, 2022.」

# -リハ栄養実践報告-

玉名市包括支援センター　榎本淳子

## 介護予防の場から取り組むリハ栄養

リハ栄養は予防の段階から始まっている！

前職で病院の退院支援看護師として勤務経験がある私が、市町村の介護予防・日常生活支援総合事業という市町村が中心となる事業に関わることになり、考え方の一つの基礎となっているものが「リハ栄養」です。昨年開催された第１２回日本リハビリテーション栄養学会学術集会熊本大会に参加、先生方のお話を拝聴したことで、「リハ栄養で介護予防を！」という考え方がさらに強くなったことは、言うまでもありません。

私の所属する市町村では昨年度「介護予防把握事業」と称して公民館活動に参加する、市内112ヶ所・約1,000名の６５歳以上の高齢者を対象に基本チェックリストを用いたフレイルチェックを市の保健師と地域包括支援センターの看護師で実施しました。結果、約２/3近くのの高齢者が、要支援・要介護状態になるリスクがあるという結果を目の当たりにしました。しかし、現段階で該当者であっても、そのようなリスクを微塵も感じていない方も多かったように感じます。なぜか？実際、私どものセンターの新規相談の内容を振り返ると、老々介護・貧困・交通難民等の背景とした課題が多く寄せられています。慢性的な地域の課題がフレイルを作り出しているにも関わらず、日常的であるためにリスクとして感じないような環境になっているのかもしれません。

このような結果を受けたからには、やるしかない。熊本大会で学んだことを実践する時が来た！と考え、市内全中学校区６地域の５年以上活動継続している通いの場６か所を選定、リハビリ職・歯科衛生士・管理栄養士が出向き、体力測定・生活アセスメントから口腔フレイル・栄養状態のアセスメント、個別評価の返却とアドバイス・その後の体力測定をセットにした、地域リハビリテーション広域支援センターや職能団体と協働する計画を立て今年度７月に始動します。個別結果を返却後、かかりつけの医師・歯科医師や特定健診の受診等、高齢者の行動変容についても確認していく予定です。高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に向けて専門職が共通の理解と目的を持ち、実施に向けて歩み始めたことに「リハ栄養は夢がある」という言葉の意味をかみしめています。

# -書籍紹介-

## 「百寿で元気な食べ物事典　70歳からはこれを食べる！」

監修　吉村芳弘　嶋津さゆり

「きんは100歳！ぎんは100歳！」というCMを覚えておられる方はかなり少なくなっているとは思うのですが、昔、100歳の双子の姉妹を紹介するコマーシャルがブレイクしました。当時は、100歳というとまだ珍しく注目を集めました。しかし、今はどうでしょう？昨年の100歳以上は90526人と昭和45年から52年連続増加しているそうです。国内最高齢の大阪の女性は115歳で家族が言われるには食べる力が長寿の秘訣、毎日3食しっかり食べておられるそうです。きんさん、ぎんさんも確か毎日刺身を食べておられたと記憶しています。さー百寿を皆様目指してSTOP低栄養！70歳から食のシフトチェンジをいたしましょう。皆様のご家族、ご親族の方へ転ばぬ先の1冊として常備して実践していただけたら幸いです。

熊本リハビリテーション病院　管理栄養士　嶋津さゆり

# -論文紹介-

飯塚病院　リハビリテーション部　白土健吾

## Rehabilitation Nutrition in Patients with Chronic Kidney Disease and Cachexia
## 慢性腎臓病と悪液質患者におけるリハビリテーション栄養

Masatsugu Okamura, et al. *Nutrients* 14, no. 22: 4722. https://doi.org/10.3390/nu14224722

本論文は、現在ドイツのシャリテ・ベルリン医科大学に留学されている理学療法士の岡村さんが執筆されたレビュー論文です。
リハビリテーション栄養は、栄養状態や身体機能を改善するための治療戦略として提案されています。しかし、慢性腎臓病（chronic kidney disease , CKD）患者の主な栄養障害である悪液質およびprotein-energy wasting (PEW）患者におけるリハビリテーション栄養は、十分に明らかにされていません。そこで、本レビューでは、CKD患者の悪液質・PEWに対するリハビリテーション栄養に関する現在のエビデンスと介入について纏めることを目的としています。CKDは世界的に深刻な疾患であり、患者の予後に大きな影響を与えます。また、CKDは疾患の背景や治療の影響により悪液質、PEWなどの栄養関連の問題を合併しやすく、予後をさらに悪化させる可能性があります。悪液質・PEWに対しては、栄養療法と運動療法が有効であると報告されていますが、それらを組み合わせた介入の有効性は十分に明らかになっていません。今後、CKDに関連する栄養問題に対処するリハビリテーション栄養は、より多くのエビデンスが蓄積されるにつれて、より広く普及すると考えます。臨床現場ではCKD患者に対して、適切な評価を行った上で、栄養療法と運動療法を併用した早期介入を行うことが、患者の転帰を改善するために必要であると考えられます。
今後、CKD患者に対するリハビリテーション栄養に関する研究が進めば、適切な介入がより明確になり、患者の転帰を改善することができる可能性があります。総じて本論文は、CKD患者に対するリハビリテーション栄養の重要性を強調し、臨床現場での介入の必要性について言及しています。

# -今月のリハ栄養数珠つなぎ-

九州スポーツ専門学校　理学療法士　早川智之

**毎号一人、①リハ栄養について、②前者からの質問（お題は自由）について語って頂きます。
今月号は、熊本桜十字病院　理学療法士　坪田浩平さんからのMBです！**

### ①リハ栄養との出会い

私とリハ栄養の出会いは、10数年前に若林先生の講演を聴いたことでした。私にとっては新しい視点と治療戦略の可能性に期待を膨らませ、それ以降、職場の医師や看護師、管理栄養士の方々などと協力して診療に臨むことを意識するようになりました。リハ栄養の考え方に基づく介入では、全ての症例に対してうまくいったわけではありません。しかし、リハ栄養を考慮した理学療法を実践することで予後の改善につながった症例も多く、温かいお礼の言葉をいただいたことはいい思い出になっています。
そしてリハ栄養との出会いは、職場内の業務改善や症例の治療効果だけに留まらず、職場外の多くの職種の方との連携を深めることにも波及したと感じています。リハ栄養を通じてつながった人脈は職種を問わず同じ方向を向いていて、お互いが自身の専門的な知識を活かしつつ、支え合っている印象を受けます。それほどリハ栄養は単一の職種で行うことは大変難しく、多くの職種の力が必要となる技術だと認識しています。これからも同志となる諸先輩方とともにリハ栄養の発展に貢献していきたいと考えています。

### ②現在の取組みと今後の課題

現在私は臨床から教育の場へ身を移して働いていますが、学校教育の場においても栄養に関する知識は不可欠であると感じています。リハビリテーション領域においては今年度より理学療法士・作業療法士の国家試験には栄養に関する内容も含まれることが明記され、より一層理解を深めるための指導が求められています。
そのため、最近では臨床で培った経験をもとに栄養に関する基礎知識や臨床応用について指導を行っています。具体的には症例の栄養状態の評価方法や運動処方について症例検討を通じて助言を行っていますが、学生にとっては馴染みのない用語が多く十分な理解につながっていないことも散見されます。そこで試行錯誤による指導にはなりますがリハ栄養の実践事例を紹介し、リハ栄養に対して少しでも関心を高めていけるような仕掛けづくりを検討しています。
将来的には卒業した学生がリハ栄養に関する技能を習得して症例に臨み、成功事例として経験することができることを願っています。そしてその経験をもとにした学術活動についてもサポートできるよう私自身も成長していきたいと考えています。

**編集後記**

News Letter Vol.32を発行いたしました。
ご多忙のところ、各項をご担当頂きました先生方のご協力に感謝申し上げます。
初めての編集作業でしたが皆様のお役に立てる内容となっていれば幸いです。
是非、多くの皆様方にご覧頂けますよう、よろしくお願いいたします。

水前寺とうや病院　理学療法士　竹内　泉